

着床前診断実施施設における均衡型染色体構造異常保因者夫婦に対する遺伝カウンセリング
Genetic counseling for couples with balanced chromosomal rearrangements at IVF Namba Clinic

北川尚子、伊藤啓二郎、中岡義晴、森本義晴

Kitagawa Naoko, Ito Keijiro, Nakaoka Yoshiharu, Morimoto Yoshiharu

医療法人 三慧会 IVF なんばクリニック

IVF Namba Clinic

【目的】日本産科婦人科学会の承認を得て実施する均衡型染色体構造異常保因者（保因者）に対する着床前診断（PGD）には、実施施設及び第三者機関における十分な専門的遺伝カウンセリングが必要とされる。今回、PGD 実施施設における保因者の遺伝カウンセリングとその後の経過について報告する。＜BR＞【対象】2009 年 6 月から 2013 年 12 月に遺伝カウンセリングを受けた、保因者夫婦 20 組（のべ 32 回）を対象とした。＜BR＞【結果】初回来談時の妻年齢は 34.0 ± 3.7 歳、流産回数は 3.0 ± 1.4 回であった。遺伝カウンセリング回数は 1.6 ± 0.8 回、PGD 申請しなかった夫婦では 1.2 ± 0.4 回、PGD 申請した夫婦では 2.0 ± 0.8 回であった。遺伝カウンセリング時間は 1 時間 29 分（1 回目 1 時間 36 分、2 回目 1 時間 23 分、3 回目 1 時間 6 分）であった。夫婦染色体検査実施は当院 5 組、他院 15 組であり、夫婦染色体検査前の遺伝カウンセリングは 4 組だった。16 組は体外受精の経験がなかった。日本産科婦人科学会への PGD 申請を行ったのは 10 組で、他は、自然妊娠にて申請中止 3 組、申請なく PGD 実施可能な他院へ転院 1 組、PGD 希望なし 2 組、不明 4 組であった。申請結果は、承認 5 組、対象外 2 組（1 回流産既往のみのため）、審査中 3 組であり、PGD 申請から結果返却までに 139.9 日間要していた。対象外の 1 組は、申請なく PGD 実施可能な他院へ転院した。＜BR＞【考察】院内の遺伝カウンセリングは毎回 1 時間以上をかけて 1～3 回行っていた。遺伝カウンセリングに来談した流産既往の保因者夫婦で実際に PGD 申請に至るのは 50%であった。PGD 申請から実施までの期間が長いことや審査の対象外となったことで他院へ転院する夫婦がいた。